

B-1 グランプリ in 姫路が 地域にもたらしたもの

B-1
グランプリ
in 姫路
実行委員会

背景にあるのは、まちおこしの理念

2011年11月12日(土)、13日(日)、兵庫県姫路市で開催した「第6回B級ご当地グルメの祭典！ B-1グランプリ in 姫路」では、過去最多の63団体の出展があり、2日間で延べ51万5千人もの来場者を記録した。

姫路市が第6回目となる本イベントは、第1回を青森県八戸市、第2回を静岡県富士宮市、第3回を福岡県久留米市、第4回を秋田県横手市、第5回を神奈川県厚木市で行い、回を重ねるごとに来場者数が増加し、姫路大会は「関西初」「新幹線停車駅初」「世界遺産前初」ということで、前回大会の厚木大会の43万5千人を超え、史上最多の51万5千人の来場者を記録し、2日間で兵庫県内における経済効果は、約40億7400万円にのぼった。

まずは、「B-1グランプリとはどのようなイベントであるのか」について簡単に説明すると、B-1グランプリは、食べ物を提供することが目的ではなく、「まちを売る」、「つまり、まちを大いにPRして、活性化につなげていくことを目的とした「まちおこし」のイベントである。

B-1グランプリの出展者は飲食店ではなく、まち



各会場での出展自体にも、多くの行列ができた
(第1会場シロトピア記念公園)

おこし団体の参加者である。そのため「出店」ではなく「出展」と、「販売」ではなく「提供」という表現を使用しており、出展団体の皆さんは、単に料理を提供するのではなく、ゆるキャラで練り歩いたり、楽器を弾いたり、芝居をしたりなどとして、行列を待っているお客さんに楽しんでもらい町のPRをする。

背景にまちおこしの理念があり、地元にある当たり前の料理が、数十年愛されてきたという物語や、数百円ながら美味しい料理であるということが年々多くの人、メディアに注目されるようになってきた理由のようである。

姫路にもたらした3つの好影響

そのようなB-1グランプリを姫路で開催した影響は多方面にわたるが、大きく3つの影響があったと考えている。

まず1つ目は、全国に向けて、姫路のまちを広くPRすることができたこと。B-1グランプリは特徴として、マスメディアの注目が非常に高く、B-1グランプリ開催日の2日間だけでも、160社のマスメディアの取材依頼があった。また当日だけでなく、開催にいたるまでに、新聞、雑誌、ラジオで取り上げられたことで、広く全国

に姫路の名前を発信することができた。

これにより、世界遺産である姫路城をはじめとした観光資源がPRでき、さらなる集客につながることを期待できると考えている。

2つ目は、姫路市においてこれだけの大規模なイベントを安全かつ円滑に行なったというノウハウが蓄積できたことである。

姫路市は、臨海地域に多数の工場を持った産業都市であるが、同時に世界遺産にも登録されている「姫路城」、映画「ラストサムライ」の舞台にもなった「書写山円教寺」などの建築物や、シヨウガ醤油で食べる「姫路おでん」、アーモンドバターを塗ったトーストの「アーモンドトースト」などのご当地グルメをはじめとして多数の観光資源が存在している観光都市でもある。現在、姫路城は瓦や漆などのいたみを補修するために平成の大改修を行っており(2015年3月に完了予定)、大改修の様子を間近に見学することができる施設「姫路城大天守修理見学施設 天空の白鷺」をオープンし誘客を図っているが、今後のさらなる誘客を図るべく、様々な取り組みを行う予定である。

Bーグランプリの運営においては、当日の会場運営・スタッフの動員計画や広報戦略、また会場周辺の交通・警備体制などの対策を講じることで、51万5千人もの来場者を記録しながらも、安全かつ円滑に運営することができた。

今後、今回のBーグランプリにおいて培ったノウハウを生かし、イベントも含めたこれからの姫路市の観光行政のさらなる発展に寄与できるのではないかと考えている。

そして、3つ目は、多くのボランティアスタッフの方々の協力により、おぼてなしの心を持って来場者を迎えることができたことである。



周辺商店街も多くの人でにぎわった

今回のBーグランプリでは2日間でのべ2721名ものボランティアスタッフの方々に協力いただいた。ボランティアの方々には姫路市にある各企業の方や市内の中高生をはじめ、周辺自治会や一般の公募ボランティア(東京や北海道からも応募あり)など、まさに市民一丸となって全国から姫路にお越しになる来場者を迎えた。

当日はボランティアの方々には会場内外において様々なお仕事をお願いした。いくつか例を挙げると、例えば、金融機関企業の方には金銭の扱いが上手なので、当日のチケット売場(Bーグランプリは金券制を導入)でチケットの販売。中高生の方々には、若さと元気を生かして出展団体と一緒にまちのPRや行列整理の補助を行ってもらった。公募ボランティアの方々には、広い会場内の案内誘導や循環清掃を行ってもらった。

ここでは紹介しきれないが、投票所の管理(Bーグランプリはお箸を投票しグランプリを決める)、駅構内から会場までの案内誘導、交差点での車両の誘導や郊外の臨時駐車場の管理など、今回のBーグランプリが成功裏に終わったことはボランティアスタッフの方々のご活躍があったからこそだと感じている。

今回のBーグランプリでは、日ごろからボランティアとして活動されている方もさることながら、初めて活動された方もたくさんいたが、今後はBーグランプリでの経験を通じてボランティア活動を行ってもらえるよう、今後もボランティアの方に向けた研修などの充実を図りたいと考えている。

姫路市がBーグランプリを経験して得たものを今後につなげ、姫路をより一層盛り上げていくことが今後重要な課題であり、Bーグランプリを運営したものの役割であると考えている。